

の点が多く、特に旧舎に至っては、全く望ましくない条件下にあった。けれどもこの悪条件を克服しながら、整備改善を図り、奉仕面の充実につとめるうちに、一方、新館舎の完成期も近づき、8月には移転準備開始となった。そのため奉仕係の主力は、専らその準備にふりむけられ、その余力をもって奉仕に当った。何にしる30年来の所蔵図書には、「ホコリ」も相当蓄積し、それを丹念に取払い、図書だけでも約8,000個の荷を数え、それを包装の上荷造りをしたが、移転後の資料散乱をおそれ、特に事前の移転計画は慎重を期す必要があった。幸い関係者の理解ある協力により、新館舎の移転作業も順調に完了したのである。

B 新しい館舎のなかで

旧館舎、仮館舎時代は、利用者層の大半は学生生徒で占められ、一般成人はきわめて少なく、館内施設、環境、資料保管等は、図書館機能発揮に支障をきたし、奉仕面にもこのことが反映し、利用者は毎年減少してきた。そこで、これが対策として、利用者層の読書生活、図書館利用についての実態調査等を実施し、あるいは図書館自体の評価を図るべく評価資料の作成などを試み、運営法に検討を加え、今後の活動の基礎的資料とした。

新館舎移転と相まって、奉仕態勢を整備したことで、館内環境が全面的に一変した関係で、利用者も昨年12月と今年度を比較すれば、約2倍に増加したが、依然として学生生徒が圧倒的に多く、一般成人はわずかに1.5倍にすぎなかった。このことは公共図書館の性格からみて、好ましくない傾向であるのにかんがみ、一般成人の利用に支障をきたさないように一般成人席を特設し、一般成人の利用吸収拡大を図った結果、1月および2月には昨年比し学生生徒の3倍増加にたいし、一般成人は2倍から2.5倍に平行して上昇してきた。また図書館利用の認識を深めるため、いわゆるP・R活動の一環として展示室、自由読書室の施設利用をも積極的に奨励している。

C 今後に残された問題

a 建物

大部分の部屋が南面となっているため、冬季間は室内に日光の直射をうけ、常にカーテンをかけねばならないので、快適とはいえない。また利用室の収容能力を拡大してほしいとの要望が多いので備品の充実とスペースの合理化をはかり、今後の運営にはこれらの点をできるだけ補っていきたい。

b 周囲の環境

敷地に余裕がない。市民館の附属施設のごとき感を抱くとの一部の声もある。

c 職員

地域社会の人々は、増員に応じた奉仕を期待しているので、職員も決意を新に努力することを忘れてはならない。

d 休館および開館時間

休館日については現状でよい。開館時間については夜間閲覧を切に要望されているが、これは学生生徒に多い。一般成人のために、開館時間を若干延長してほしいとの要望もある。午後5時半閉館では、一般成人の利用は土、日以外に利用する日がないところからみて、考慮する余地もある。月曜日休館については、職員および図書館運営面から考え、検討を加える必要がある。

e 読書層

学生生徒によって大半を占められ、一般成人では無職、公務員、会社、銀行員の順序だが、無職はほとんどいわゆる大学受験浪人であって、この人々が益々増加していく傾向にある。これは社会問題としても考慮すべきことである。

f その他

学生生徒の利用者の約40パーセントは場所の利用にすぎず、図書資料は利用していない。この現象は本県のみならず、全国的に共通したもので、この対策も考えていかなければならない。

以上を総合してみると、問題の本質はよりよい環境で、何時でも自由に読みたい本を、より多く利用できる図書館を地域社会の人々が望んでおることは確かであり、また図書館本来の姿もかくあるべきで、そのためにはどのような障害を克服していかなければならないのか、常に研究と工夫を怠らず、近代的図書館としての機能を充分果すことが、われわれに与えられた課題であろうと思う。

旧館舎、新館舎、利用状況比較表

月別、館別	項目別		計	利用冊数	開館月数	一日平均
	学生生徒	一般成人				
旧昭和32年12月	4,313	1,162	5,475	4,244	23	238
新昭和33年12月	9,387	1,814	11,201	11,491	24	467
旧昭和33年1月	3,536	1,195	4,731	3,890	20	237
新昭和34年1月	9,601	2,353	11,954	8,185	21	569
旧昭和33年2月	4,948	1,433	6,381	4,975	23	277
新昭和34年2月	12,286	2,701	14,987	8,425	23	652
新昭和34年3月	2,933	1,755	4,688	4,810	25	188
旧昭和33年3月	6,964	3,306	10,270	7,093	24	428